

檀原市立図書館だより

平成26年7月1日発行  
第30号

# 檀の樹

五條の作家

川村たかし

P2~3

こんな本

読んでんねん

P4~5

図書館員の本棚

P6

お知らせその他

P7~8



## 館内展示

### 五條の作家

川村 たかし



生前のまま今も保存されている自宅書斎。この空間で、幾つもの作品が執筆されました。

吉野川沿いの古い町、五條市。街道や水運が交わる要衝の地であり、江戸期には代官所も置かれ、宿場町としても栄えました。児童文学作家 川村たかしは、五條市で生まれました。小学校から高校まで地元五条市内で学び、大学卒業後も五条市の中学や高校で教鞭を執りました。

このページは、地元の歴史や風物からも広く題材を求めた作家の足跡を関連資料の展示でたどった「五條の作家 川村 たかし」—3月21日(祝)~5月14(水)展示— の内容を再構成したものです。

## 十津川水害と「新十津川物語」

1889年(明治22年)8月、奈良県吉野地区は未曾有の暴風雨に見舞われました。6か村からなる十津川郷(現十津川村)では、水害に山地崩壊が重なり、死者255名、全壊家屋200、流出家屋365の甚大な被害をこうむります。古くから十津川郷士として結束が強かった地域であり、2500名にもおよぶ北海道への大規模移住が、被災の年から翌年にかけて実施されました。寒冷地での過酷な生活が災いして、翌90年の夏までに60名余りが病没したと伝わっています。

「新十津川物語」は、こうした史実に取材した作品です。水害で両親を失った9歳の少女フキが、北の大地でたくましく生きる70年の物語です。

「新十津川物語」の誕生は、新十津川村の存在なしには語り得ません。北海道新十津川村(現新十津川町)は、奈良県十津川郷からの移住入植者によって建設されました。重機や土木技術が十分整っていなかった明治期の開拓、冷害や大河の氾濫といった自然の脅威、戦争などの様々な困難を乗り越えながら、ひとりの少女が、妻として、母として、さらには祖母として歳月を重ねてゆきます。同時に、「第二のふるさと」の建設に関わってゆく様子が、北の大地の風物とともに描かれます。

この物語のために、川村たかしは、1972年頃より北海道新十津川町で取材を始めています。同年、「新十津川物語1 北へ行く旅人たちが」が刊行されます。全10巻におよぶ物語が完成したのは1988年のこと。北海道での取材活動は通算15年にも及びました。

「最終巻10 マンサクの花」の作中、80歳になったフキは、子どもたち、多数の孫やひ孫が見守る中、開村70周年の式典にモンペ姿で出席します。壇上、木綿製の「土の晴れ着」姿で開拓功労賞を受けるフキ。大地とともに生きてきたフキの、たくましさや人柄が滲み出た秀逸の場面です。

「新十津川物語」はNHKテレビドラマにもなりました。91年10月から翌年9月にかけて、土曜ドラマ「新十津川物語 一明治編一、一大正編一、一昭和編一」が放送されました。テレビ放送の影響は小さく、母村である十津川村と北海道新十津川町の関係が、広く知られるきっかけにもなりました。

川村たかしは、「山へ行く牛」「新十津川物語」などの著名作品の他、児童向けの短編や絵本も多く手がけています。1972年にポプラ社より刊行された「サーカスのライオン」は、6年後に小学国語教科書3年生(東京書籍版)に掲載されました。また同78年には「山へ行く牛」が6年生の国語教科書に掲載されています。

(絵本「サーカスのライオン」で作画を担当した斎藤博之氏から川村たかしご本人に贈られた原画(案)のひとつ)



## 川村たかし略年譜

- 1931 11月8日、奈良県五條市中之町に生まれる。本名 隆(たかし)。父の千里は、教職の傍ら農業を営んでいた。
- 1944 旧制五條中学(現県立五條高校)入学。この頃より俳句を始め、藤岡玉骨氏に師事。
- 1950 奈良学芸大学(現奈良教育大学)入学。雑誌「アラベスク」同人。
- 1955 五條小学校に勤務。
- 1957 結婚。夏、父逝去。同人誌「奈良児童文化」に花岡大学らと参加。童話を寄稿する。
- 1961 五條中学校に勤務。同人誌「奈良文芸」「まほろば」に参加。NHK名作ライブラリーの放送台本を多数執筆する。
- 1964 五條高校に勤務。同人誌「童話」会員。
- 1968 「川に立つ城」を実業之日本社より処女出版。翌年、「最後のクジラ舟」を同社より刊行。
- 1972 北海道新十津川町で「新十津川物語」の取材を始める。前年より、奈良教育大学、大阪文学学校で講師。「サーカスのライオン」「もりくいクジラ」等執筆。翌年、「もりくいクジラ」でサンケイ推薦賞。「北へ行く旅人たち 新十津川物語 1」刊行。
- 1978 「北へ行く旅人たち」でサンケイ推薦賞。「山へいく牛」で第16回野間児童文芸賞、国際アンデルセン賞優良作品賞。「サーカスのライオン」が東京書籍版「小学国語 3年生」に収載。「山へ行く牛」が「小学国語 6年生」に収載。
- 1980 「山へいく牛」「新十津川物語」等に対し、第2回路傍の石文学賞。
- 1983 梅花女子大学教授。「新十津川物語5」「ふくろうのあずけもの」
- 1988 「新十津川物語10 マンサクの花」刊行。これにより「新十津川物語」完成。
- 1989 「新十津川物語」全10巻に対して第36回産経児童出版文化賞大賞。第29回日本児童文学者協会賞。
- 1995 「天の太鼓」により第19回日本児童文芸家協会賞。
- 2000 文部大臣賞。「奈良県の童話」により奈良新聞文化賞。翌年、紫綬褒章。
- 2007 韓国語版「サーカスのライオン」が出版される。
- 2010 1月30日、永眠。 従五位下旭日小綬章。

## 橿原市立図書館が所蔵する川村たかし関連の図書(抜粋)

熊野海賊	川村 たかし	ファラオ企画版 岩崎書店版
ノルウェーから来た鯨とり	川村 たかし	偕成社
サーカスのライオン	川村 たかし	ポプラ社
新十津川物語1～10	川村 たかし	偕成社
天の太鼓	川村 たかし	文溪堂

## \* その他の関連図書

「和歌山の昔話」(リブリオ出版)、  
 「六にんのごうけつ」(ひかりのくに)、  
 「ふくろうのあずけもの」(文研出版)、  
 「奈良の童話」(リブリオ出版)、  
 「先生がいて牛がいて」(探求社)、  
 「うっかり魔女ばあさん」(ポプラ社)、  
 「銀河鉄道からず座特急」(ポプラ社)、  
 「こぞうさんのおばけたいじ」(文研出版)

こんな本

読んでんねん



入選書評は、図書とともに館内展示します。

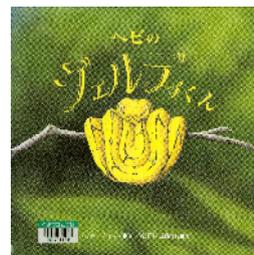
お気に入りの図書を小学生の皆さんにご紹介いただく150字書評「こんな本読んでんねん」は、今年で3回目を迎えます。このページでは、昨年の入選書評の中から一部をご紹介します。(執筆者の学年は、昨年度のもので)募集の詳細は、図書館ホームページ、館内チラシ、本紙裏表紙などをご覧ください。

「ヘビのヴェルディくん」 ジャネル・キャンン 著

BL出版

今井小4年生 村井 希美枝 さん

絵が本格的でリアルな感じです。説明の本ではなくて、おはなしなので、読んでみたら面白かったです。「アーあぶない！」と思ったときや、「ヘビに1日なってみたい」と思ったこともありました。

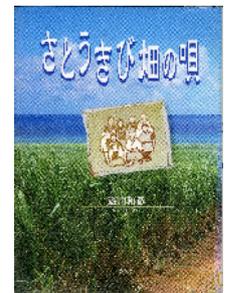


「さとうきび畑の唄」 遊川 和彦 著

汐文社

晩成小4年生 楠 琴音 さん

沖縄での戦争を作品にした本です。家族の前を、カメラを持ったアメリカ兵が通ります。「そのカメラは、父のものです」とお姉さんが言います。「彼は戦死した」とアメリカ兵からいわれ、泣いているところが悲しかった。



「ビジュアル版 戦国武将大百科」 二木 謙一 著

ポプラ社

金橋小5年生 橋本 祐輔 さん

この本を見て、戦国時代の武将について調べています。本拠地の城の写真ものっています。それぞれの武将が何年に生まれ、何年に亡くなり、何が起こったかなどが、詳しく書かれています。家紋までのっています。



「富士山大ばくはつ」 かこ さとし 著

小峰書店

今井小4年生 榎谷 颯太 さん

日本一高い山、富士山の高さは3776Mです。富士山は、過去にふんかしていますが、動物や鳥がいると本に書いてあります。ニホンカモシカとかもいます。種類が多くてすごいです。



「ぼくらの天使ゲーム」 宗田 理 著  
 角川つばさ文庫  
 香久山小6年 小林 彩乃 さん

夏休みが終わり、彼らは一日一善をすることになりました。いまにもつぶれそうな幼稚園を、老人を集めて「老稚園」をつくらうとするなど、とてもおもしろいです。事件がおきても、自分たちでかいけつするのが、かっこいいです。



「ポケネコにゃんころりん」 山本 悦子 著  
 フォア文庫  
 香久山小6年 樹谷 優佳 さん

小学生の男の子がペットショップでポケットに入る小さなネコをもらいます。そのネコ「にゃんころりん」はまねきねこで、様々なことをまねいてしまおうおそろしいねこです。でも、不思議な力で守ってくれたりもします。



「はてしないものがたり」 ミヒヤエル・エンデ 著  
 松岳社 その他  
 畷傍北小4年 堀田 彩花音 さん

はてしないものがたりは、わくわくして、ブルブルして、もういろんな気持ちであふれます。ドキドキ、わくわく、どうなるの？ 思いがあふれて、本を手を持つと読む手が止まりません。ぼうけん好きのひとにはオススメ！



「くちぶえ番長」 重松 清 著  
 新潮文庫  
 畷傍南小4年 たけのうち けんご さん

マコトという女の子が転入してきて番長になります。悪い6年生の3人組「ガムガム団」をやっつけたり、4年生のおつぼねさまをいじめっ子から守ったり、学校の問題を解決してゆきます。



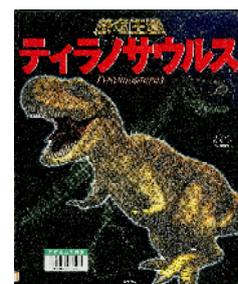
「みそのひみつ」 大岩 ビュン 著  
 学研  
 今井小6年 吉田 悠真 さん

この本は、みその種類や歴史や料理のことをまとめた本です。みそのことをまんがでわかりやすく書いています。ロンドンにみそのことを伝えられたことが感動しました。この本は、小学3年～6年生むきの本です。



「ティラノサウルス」 ファビオ マルコ ダラ ヴェッキア 他 著  
 ポプラ社  
 晩成小5年 堀内 貴矢 さん

ティラノサウルスの歴史や骨の内部などくわしい解説があります。ぼくは特にティラノサウルスの骨が気になりました。歯の部分が細かくて、びっくりしました。とてもくわしいことが書いてありました。



## 図書館員の本棚(16)

「南方郵便機」 「山の郵便配達」 その他

インターネットや国際電話がなかった20世紀前半、航空郵便が担った役割は小さくなかった。しかし、飛行技術自体が開発途上にあった草創期、多くの犠牲が強いられた。南米とフランスを結ぶ航空路には、地上に遭難機の残骸が点在した。天候や機器の不調などにより、しばしば飛行の困難に見舞われた。不時着に成功しても、不帰順民による虐殺にさらされた。1920年代の民間航空の現場で、未開発の職務に従事したパイロットが記した作品である。

レーダーや自動航法はまだなかった。中継基地と搭乗員を結ぶのは、電信のみだった。そのか細い命綱を頼りに、パイロットは目視と経験と個人的技量によって大西洋を渡った。地上で待機する家族やスタッフにとって、フライトプランに記された中継基地からの定時入電がないことは、重大な事故の発生を意味した。落雷を避けるために機上の通信士がアンテナを収容してしまうと、機体は「糸の切れた凧」のようによるべを失った。気象情報を得られないまま、高山や海面への激突に怯えながら、闇の中をサイクロンに向かって滑空することになってしまう。

暴風雨の空中で、パイロットは機体をきしませながらサイクロンの「目」の中に逃れる。そこは、星々が輝く静寂の世界だ。だがつかの間の安息は、地上への生還を永久に奪う恐ろしい密閉装置でもあった。

「サン＝ルイ・セネガルよりトゥールーズへ。フランス＝アメリカ便、ティメリス岬東方に発見される。付近に匪賊あり。操縦士死亡、機体破損、郵便物無事。ダカールに向け継送中」（南方郵便機）

「星の王子さま」の世界も、そうした過酷さの中で着想されたといえるだろう。物語中、著者の執着が強く感じられるのが、砂漠と星空の描写ではないだろうか。僚友の機体が今も屍をさらしている砂漠……。死と隣り合わせの上空で、網膜に焼きついた星々のきらめき……。それらを知った後では、あの比類のないメルヘンも、以前とは異なった様相で読者に迫ってくるのではないだろうか。

本書の表紙カバーもそうだが、当時の写真が何枚か残されている。そこからは、時代の最先端を疾走する職業者の華やぎや高揚感といったものが感じられない。兵器として進化を遂げるほかなかった宿命の暗さや、発展の代償となった犠牲の重さが、操縦席に身を沈める者の表情に複雑な陰りを投影したかも知れない。

\*

80年代に入っても、中国奥地の山岳部で、過酷ともいえる郵便輸送を担った人びとがいる。行程2泊3日、100キロにおよぶ山岳路を、徒歩での郵便輸送を務める配達員の日常を描いている。20キロの郵便袋を天秤棒の両端に縛り付けると、40キロの重量が配達員の肩に食い込む。郵便物の集配に立ち寄る村々で、老いた配達員は、若い後継者にこれまでの経験を引き継いでゆく。都会から郵送されてくる仕送りが抜き取られないように……。党の顔役からにらまれている者にも、郵便物が届くように……。増水すればたちまち濁流に姿を変える悪路を、9年にわたって踏破し続けてきた配達員に、引退の日がおとずれる。

サン＝テグジュペリ(1900～44)

フランス、リヨン生まれ。作家、飛行家。「夜間飛行」「人間の土地」などの他、児童作品「星の王子様」など著作多数。第2次大戦中、対独戦にパイロットとして従軍、殉職

彭 見明(ポン＝チェンミン)

(1953～)中国、湖南省平江県生まれ。俳優や電気技師等を経て、96年ごろより作家活動に入る。全国優秀短編小説賞、湖南省青年文学賞等。著作多数。



「南方郵便機」  
サン＝テグジュペリ 著  
山崎 庸一郎 訳  
みすず書房



「山の郵便配達」  
彭 見明 著  
大木 康 訳  
集英社

## 親子手作り絵本教室(募集中)

身近な材料と自作の「おはなし」でオリジナルな絵本を手作りします。

### ◆ 対 象

市内在住の小・中学生とその保護者で、2日とも参加可能な方。

### ◆ 日 時

7月31日(木)、8月1日(金)  
13～15時

### ◆ 講 師

金尾 恵子さん(絵本作家)

### ◆ 会 場

かしはら万葉ホール4F研修室

### ◆ 定 員

70人(多数の場合抽選)

### ◆ 申込 問合せ

館内1Fカウンターで直接申込。または往復ハガキに住所・参加者全員の氏名・年齢(学年)・電話番号を記入し、7月10日(木)必着で図書館へ郵送。  
抽選結果は7月15日(火)から図書館内とホームページに掲示。



## ストーリーテリング講習会 (募集を終了しました)

例年秋期に開催している講習会を、今年度は6月～7月に開催します。



## 図書館ボランティアを募集しています。

館内での読み聞かせ、汚破損図書の修理、ブックスタート会場での来場者対応などにご参加いただける方を随時募集しています。詳細は、図書館へ直接お問合せください。

### ◆ おはなし班

図書館おはなし室、図書館行事などで、子どもたちに絵本の読み聞かせ、紙芝居の実演など。

### ◆ ブックスタート班

1歳6ヶ月健診会場で、受診者の幼児とその保護者に絵本の読み聞かせや各種のお知らせ紹介など。

### ◆ 修理班

館内の作業室で、所蔵図書の清拭や修理など。

## 橿原市立図書館

〒634-0075  
橿原市小房町11-5

TEL:  
0744-29-2121

FAX:  
0744-29-1011

http:  
//www.city.kashihara.jp/  
toshokan

### 編集後記

#### Mさんの筆跡

Mさんに初めてお目にかかったのは、7年前のことだった。その頃、図書館はボランティアを初めて募集することになった。「広報に募集記事を載せたが、応募者はあるだろうか……」不安を払拭するように、十数人の方が集まってくださった。

メンバーの中から、会長を選出することになった時、誰もが尻込みされた。対応に窮して、年長者のMさんに相談した。大阪府下の学校長を定年退職されていたMさんは、現役時代には縁の薄かった地元へのご恩返しにと、参加しておられた。「柄ではないが、お役に立つのであれば」と引き受けてくださった。

任期中、Mさんは毎週のように来館された。作業室で、大柄の体躯を窮屈そうにかがめて、図書の修理に努められた。言葉を交わすうちに、奥様の介護が必要なこと、家事の大半はMさんが担われていることを知った。「無理をなさらずに……」と声をかけると、「家に居ても、習字ぐらいしかすることがなくて」と笑っておられた。

3年後、後任者が決まるのを見届けてから、Mさんは退会された。その後、暑中見舞いの葉書を、一度だけお出したことがあった。すると折り返し、分厚い封書が届いた。ご自身の近況、若かった頃の思い出や教職時代のエピソードなどが、上等な和紙に達筆でしたためられていた。昨年の初夏、Mさんが他界されてすでに1年になることを知った。

郵便物を準備する時、手軽なパソコンをつい使ってしまう。そんな時、若輩にも親身に接してくださったMさんの見事な筆跡がよみがえってくる。

(編者)

## こんな本読んでんねん

—紹介する本は、橿原市立図書館にある本から選んでね—

応募用紙に、紹介したい本のオススメするポイントなどを書いて応募してください。選考のうえ、「広報かしはら」で紹介します。また、図書館でも本といっしょに書評を展示します。

◆応募できるひと 橿原市内の小学4, 5, 6年生

◆紹介する本 橿原市立図書館にある本  
(絵本、事典、成人向けの本でもかまいません)

◆紹介する内容 150字以内で、なぜオススメなのかを書いてください。  
どんな本か? (本のあらすじや内容)

おもしろいところ 良かったところ 感動したところ

どうして紹介したいのか 誰に紹介したいか

~など、自由に書いてください。

◆応募する方法 応募用紙に記入して、学校か図書館にある応募箱に入れてください。ひとりで何冊でも紹介できます。  
応募用紙は図書館で配布します。また、図書館のHPからもダウンロードできます。

◆応募締め切り 平成26年9月30日(火)

### 図書館利用カードの更更新手続について

- ◆ 手続に必要なもの
- ① 図書館利用カード
- ② 現住所を確認できるもの  
(運転免許証や健康保険証)
- ※ 県外の方は、在勤・在学を証明できるもの

詳細は、来館時にカードをご提示の上、おたずねください。

### 館内資料展示のお知らせ

◆ 「夏の絵本展」  
期間 9月17日(水)まで  
場所 1F絵本コーナー

◆ 「教科書展示」  
期間 7月11日(金)まで  
場所 2F展示コーナー

### 表紙の写真

新学期、市内の畝傍高等学校図書館で行われた調査研究授業のひとコマ。学校図書館や県立図書情報館の所蔵図書とともに、当館の中島敦に関する所蔵図書が活用されました。